

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立 深町 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

教科に関する調査(国語、算数、理科)
①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

児童質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

※本校の6年生については、単学級ですので、個人が特定されないように公表の方法については、配慮しています。

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。「話すこと・聞くこと」は全国平均正答率より上回っていた。しかし「書くこと」「読むこと」の2領域については、課題が残される。
	よってきた問題	必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が利きたいことを中心に捉える問題、登場人物の行動や気持ちなどについて、叙述を基に捉える問題、互いの立場や意図を明確にしながらいかに話し合い、自分の考えをまとめる問題。
	努力が必要な問題	登場人物の相互関係について、描写を基にとらえる問題、表現の効果を考える問題、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題、学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使う問題。
算数	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。領域については、全校平均正答率を上回っているものはなく、特に課題のある領域は、「変化と関係」「データの活用」である。
	よってきた問題	示された場面のように、数量が変わっても割合は変わらないことを理解している問題、比較的よってきた問題は、図形を構成する要素に着目して、ひし形の意味や性質、構成の仕方について理解している問題。
	努力が必要な問題	二つの数の最小公倍数を求めることができる問題、百分率で表された割合を分数で表すことができる問題、分類整理されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を捉え考察できる問題、正三角形の意味や性質を基に、回転の大きさとしての核の大きさに着目し、正三角形の構成の仕方について考察し、記述できる問題。
理科	全体的な傾向や特徴など	全体的に全国平均正答率を下回っていた。領域については、全校平均正答率を上回っているものはなく、特に課題のある領域は「地球を柱にする領域」「エネルギーを柱にする領域」である。
	よってきた問題	比較的よってきた問題は、自分で発想した予想と、実験の結果を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもつことができる問題。
	努力が必要な問題	自分で行った観察で収集した情報と追加された情報を基に、問題に対するまとめを検討して、改善し、自分の考えをもち、その内容を記述できる問題、観察などで得た結果からいえることの視点で分析して、解釈し、自分の考えをもつことができる問題、水は水蒸気になって空気中に含まれていることを理解している問題。

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査の結果分析
<p>○「学校に行くのは楽しい」、「友達と協力するのは楽しい」「人が困っているときは、進んで助けている」「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいるおとなにいつでも相談できますか」という質問に対して、当てはまると感じている児童はとても多い、このことより、学校での人間関係はとてもよく、学校が児童にとって心の居場所となっていることがうかがえる。また、いじめは、どんな理由があってもいけないことだと考える児童が多く、学級活動及び生徒指導、人権教育等の成果が認められる。</p> <p>○「今住んでいる地域の行事に参加していますか」「地域や社会をよくするために何をすべきかを考える」ということに関して、多くの児童が当てはまるという回答をしており、特別活動やキャリア教育の成果を読み取ることができる。</p> <p>○「将来の夢や目標をもっていますか」「人の役に立つ人間になりたいと思いますか」ということに関して、多くの児童が当てはまるという回答をしており、将来の自分に対して夢や希望をもち、将来の自分を見据えた考えをもてる児童が多くいることがわかる。</p> <p>○学校で、授業中に自分で、PC・タブレットなどのICT機器を使っている児童の回数が多く、PC・タブレットなどのICT機器を使うことは勉強に役に立つと考えている児童が多い。このようなことから、授業の中でタブレットを活用しながら授業を進め、児童がPCの有用性を十分に理解していることがうかがえる。</p>

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

<p>○各学級の児童の実態に応じて各教科の課題の克服を図り、学力の定着を図る。漢字や計算などは、繰り返し練習し、基礎的・基本的な学習の確実な定着を図る。</p> <p>○主題研究(算数科を中心に)「基礎的・基本的な内容の確実な定着」「考えたことを表現する力を高める」とことや板書計画に力点を置きながら、授業の振り返りや自分の言葉で自己の学びを表現することができるようにする。</p>

② 家庭生活習慣等に関する取組

<p>○宿題や家庭学習について各教科の課題や児童の学習特性に応じた内容を整理して、児童の発達段階に応じて意図的・計画的に取り組めるようにする。</p> <p>○日常的なあいさつ等の基本的な生活習慣を徹底するとともに、身近な人や地域の行事に対して積極的に関わることができるようにする。</p> <p>○全国学力・学習状況調査の課題と取組等については、学校だより、学校HP等で成果と課題を説明し、保護者に周知していく。また、家庭と連携しながら学力向上のための取り組みを進めていく。</p> <p>○家庭と連携し、健康教育・食育の充実を図る。</p>
--